

蒲郡市議会公傍聴記

地方政治
クリエイト

伊藤 秀昭

■公共施設管理
柴田安彦氏(無党派)は今後30年間の公共施設マネジメント実施計画について、取り上げた。

計画の基本となる公共施設白書によれば08年から13年までの6年間の平均実績額を用いて年平均18・6億円としているが、この間には大きな建設事業は行われていない。

また、この5年間教育施設整備事業基金の積み立ても毎年3億円行っており、これらを更新事業に活用すればどうなの

か。また経費の推移を普通会計の投資的経費としながら、市民病院の企業会計施設も算入しているのは恣意(しい)的でないかなど指摘した。

また柴田氏は体育館の建設候補地については竹島ベイパーク(松原町)を挙げたが、市側は、市街化区域への編入が課題とし、津波などの恐れがあるエリアは堤防の前出しなどの災害対策が前提になると答えた。

■スケートボードパーク
鈴木貴晶氏(自由

クラブ)はみなとオアシスにおける賑わいの創出について取り上げ、スケートボードが、20年東京オリンピックの正式種目になっていくことから利用者ニーズの把握を基に、検討の場を設け、スケートボードパークの開

設を要請した。この問題に関心をもち、振替休日を利用して保護者とともに傍聴に訪れた小学生の傍聴を議長が許しなかったため、市役所1階ロビーのテレビで中継を見る

の夜のヤフーニュー

ス上で炎上した。蒲郡市議会傍聴規則は小学生以下の傍聴を原則禁止しているが、議長の許可があれば傍聴できると定めている。

議長就任1カ月で初めての定例会に臨んだ大場康議長に「柔軟な対応」を求め

るのは無理だったのだろうか。■新体育館
大向正義氏(自民党)は新体育館の競艇場案について、災害時の液状化や津波、高潮への懸念を指摘した。市は、杭

による液状化対策を

げ、津波については浸水想定区域に含まれていないことを説明した。

また、治安を不安視する声に対しては市長が答えて、競艇場の収益が市の財政に大きく寄与してきたことを強調した上で「競艇場が青少年

の健全育成に悪いと

は考えていない」と

派)は、新体育館の3候補地について比較する形で質問し、「競艇場周辺地区の環境について議論があるが、近くに小学校がある」事実を強調し、治安問題を一蹴した。

さらに県が3月に公表した「大規模施設

の耐震性に関するまとめ」で、「現体育館は、震度6強の地震で倒壊の危険性が高い」とされたことから「耐震性に不安のある状態で多くの人が利用している。早く建て替えるべきだ」と強調し、それが可能なのは「競艇

場南東だ」と提案した。

■AED
牧野泰広氏(自由クラブ)は自動体外式除細動器(AED)が04年に一般市民にも使用が認められて以降、71公共施設に73台、コンビニに38台設置し、一定規模以上の行事にも貸し出して現在の現状を踏まえ、特に小中学校の休日や夜間の対応のために屋外設置について問題視した。

総務部長は野外ポックスの設置について教育委員会を交えて検討していくことを約した。

これは救命救急にかかわることであり、きめ細かい対応

が求められる。

■メタンハイドレート
鎌田篤司氏(自民)が取り上げた。企画部長は「国が純国産エネルギーの開発をめざし、東部南海トラフ海域で相当量の存在を確認し、安定的産出可能

が確認できている。現在は最終的な技術の整備、経済性の検討などが行われている」とし、今後の推移の中で企業誘致などに取り組みたいとした。

鎌田氏はメタンハイドレートについてもっと広く知っていただくと伊ベントなどを提案した。

を

体育館候補地巡り、様々な意見

この問題に関心をもち、振替休日を利用して保護者とともに傍聴に訪れた小学生の傍聴を議長が許しなかったため、市役所1階ロビーのテレビで中継を見るの夜のヤフーニュー